

嘉瀬川水系本庄江 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)

佐賀市

(再評価実施後5年が経過)

位置図



事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生
平成2年7月洪水

浸水戸数 500戸

浸水面積 520ha



○浸水被害の軽減を図る

- ・流路是正、狭窄部解消を実施
- ・治水安全度の向上を図る

計画流量 $100\text{m}^3/\text{s}$

計画治水安全度 $1/50$

過去の被害

○平成2年7月(梅雨前線豪雨)

連続雨量463.5mm、最大日雨量313mm
時間最大雨量66mm(佐賀土木事務所 雨量観測所)

浸水戸数500戸
浸水面積520ha



国道208号の冠水状況(佐賀市八戸付近)



国道208号の冠水状況(佐賀市八戸付近)

○平成20年6月(豪雨)

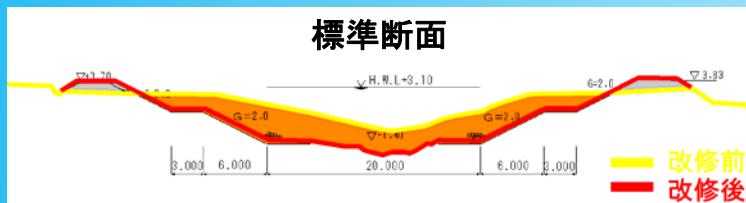


本庄江広域河川改修事業 着手年:昭和52年度 事業地:佐賀市



○事業概要

- ・全体事業費 13,100百万円
- ・事業期間 S52~H40
- ・改修延長 7,405m
- ・計画流量 100m³/s
- ・計画治水安全度 1/50
- ・掘削・築堤・護岸、
樋管19基、橋梁10基、
堰2基、水門1基
- ・費用対効果 2.5



事業進捗状況



○事業進捗状況

- ・今重橋付近(3.0k)まで、1/10(暫定)での整備が完了
- ・H29年度末進捗率 92%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 2.2%

完了区間状況(上流部)

本川 新橋(5k390)より下流を望む



支川新川 北島橋(1k120)より下流を望む



未完了区間状況(下流部)

本庄江橋(0k900)より上流を望む



新高橋(4k420)より下流を望む



多自然川づくりの状況

完了直後：平成9年



完了20年後：平成29年



「**接続ブロック(植生・擬岩)**」、「**玉石柳枝工**」、「**片法枠工(魚巢)**」を施工したことにより、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。

事業を巡る社会情勢等の変化

○将来、有明海沿岸道路と佐賀唐津道路のインターが建設予定

費用対効果の要因の変化

工期延長によりCが増大しB/Cの減

総費用額C: 治水施設の整備及び維持管理に要する総費用
(建設費、維持管理費(事業完了後50年間))

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる総便益額(被害軽減額)

・一般資産被害(家屋、事業所等)	31,705百万円
・農作物被害(水稻、畑作物等)	382百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁等)	53,708百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、清掃費用等)	9,118百万円
・残存価値	83百万円

総費用C: 37,606百万円

総便益B: 94,996百万円

⇒ 費用対効果

$$B/C = 94,996 / 37,606 = 2.5$$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト削減

- ・再生材の積極的利用
- ・建設副産物の有効利用

○代替案の検討

特になし

対応方針(事業課案)

○河川改修の効果

①治水安全度の向上

②平成2年7月洪水による

浸水被害 500戸

浸水面積 520ha の軽減

③地域住民の安心・安全の確保

○今後の事業展開

・事業を継続し、早期完成を図りたい